

入園期にそなえて



組編成の問題

小林 操

園児を小学校に進学させて二週間足らずで、また、かわいい園児たちを幼稚園に迎える新しい学年が始まる。幼稚園としては幼児たちが、楽しんで幼稚園に登園し、喜んで幼稚園の生活に受け込んで毎日が過ごせるようにくふうをこらして迎えてやらなくてはならない。それにはいろいろの準備があるが、その一つとして、「組をどんなふうに編成するか」という用意が必要である。

幼稚園に入園する幼児は満三才から満五才までであるから、三才組、四才組、五才組と組の編成が出来るように、入園児が入園してくれば問題はないが、現実には必ずしもそうしたバランスはとれていないのである。一方幼稚園の定員もまちまちで、少ないのは五十人ぐらいから、多いのは四百人を越える場合もあるであろう。三才、四才、五才の年令児が、それぞれ一組を編成することの出来ない場合と、園の定員が五十人から四百人以上の幅をもつていふことと、さらにこの四月に新しく入園する幼児のほかに、前年から続いて在園している、三年保育の二年め、三年め、および二年保育の二年めの園児がいる。この三つの条件を「いかに組合わせて組編成をするか」という問題が生ずるのである。予想される組編成の型としては、

1、三才児（三年保育）、四才児（二年保育）、五才児（一年保育）と年令によってはっきりと三組に編成する場合。この場合に前か

らに園していた四才児、つまり三年保育の二年め、三年めの幼児をどうするかという問題と、前から在園していた五才児、つまり二年保育の二年めの幼児をどうするかという問題がある。

2、三才児（三年保育）だけで一組、三年保育の二年めの幼児と新しく入園した四才児とで一組、二年保育の二年めの幼児と新しく入園した五才児とで一組を編成する三組の場合。

3、三才児（三年保育）で一組、三年保育の二年めの幼児と、新しく入園した四才児で一組、二年保育の二年目の幼児で一組、新しく入園した五才児で一組、と四組に編成する場合。

以上は基本的な組編成の型をあげたのであるが、実際には、さほど簡単に取扱うことは出来ない。私の乏しい経験から次の諸点は考慮しなくてはならないと思う。

1、同年令の幼児で二組以上を編成する場合には、生年月日順に二組なり、三組なり、四組なりに編成して、第二学期のはじめに（九月）四月から翌年三月までの生年月日によって平等に編成替えをするのがいい。これは幼稚園になれるまでの基本的な指導をするのに好都合であり、これは一学期間ぐらいで十分であるという観点からの編成である。（この組替えについて担任や父母に反対の声があるとすれば、教育的な理由を述べて理解を求めるのである。）

2、三年保育の一年めは、人数が少ないからといって、一年保育

の年長組にくつつけたり、二年保育の一年めの幼児と一しょにするのは絶対にさげなくてはならない。三年保育の入園を許すならば、どんなに人数が少なくても一組に編成して一教師が指導に当らなくてははいけない。（その理由ははっきりしているので省略する。）

3、園の事情によっては、三年保育の二年めの幼児と、二年保育で新しく入園した幼児とを一組に編成することは、三年保育から来た幼児が、組全体の三分の一以下だったら割合にうまく指導が進められるように思われる。

4、二年保育の二年めと、新しく入園した一年保育児とは、同じ組を編成しない方がいい。二年保育の二年め組も、一年保育組も、来年は小学校に進学する幼児たちである。二年保育の二年め幼児は、幼稚園における生活の習慣やきまりを一応身につけているので、そういった方面の指導は手がはぶけるのである。ところが、一年保育の新入園児は、まだ幼稚園での集団生活の経験がないので、最初はその方面の指導もあわせおこなわなくてはならない。こうした指導の内容を多少とも異にする、二年保育の二年め児と、一年保育児とを混合して指導することは、幼稚園での最後の指導の年であるだけに避けるべきである。

以上は、組編成についての所感であるが、実際には、組編成が直ちに園の経営人事の面に影響してくるので、理想的な編成は空想み

級編成にのぞむこと

宇田川照子

たいなものになりがちである。最初にもふれたように、園児五人ぐらいの幼稚園と三百人を超えるような幼稚園とは、容易に解決しない問題である。それと同時に組編成に直接関係のある重

今まで五年間、五つの組を受けもってきたが、とてもやりやすかった組もあれば、非常にやりにくかった組もあった。それらを考えてみると、その五つの組は、組を構成している条件が、それぞれ違っていたことに気付くのである。すなわち、構成人数、男女の数、年齢構成、保育経験、などが、組の雰囲気や保育の難易効果などに影響を与えていたのである。そこで私は、過去五年間に受けもった組について、その問題点や望ましかった点をふり返ってみ、合わせて、級編成に対するいくつかの希望を述べてみようと思う。

受けもった五つの組の条件を明らかにするため、次のような表に要約してみた(級[A][B][C][D][E]参照)。結果を先に記すと、この五

要な問題は、教育計画をどのように立案するかという点である。組編成と教育計画とは緊密な連関の上に立たなくてはならないことを書き添えておく。
(東京・松蔭幼稚園長)

級 [A]

級名	きく組(年長組 二年保育 混合組)			
人数	54	男 女	30 24	男児の方が6人多かった。
年齢	5才	男児	54	54人全部年長児、生まれ月ほぼ一年間にわたっていた。
	4才	男児	なし	
保育経験	一年間	男 女	16 9	二年保育の二年めの児25人、一年保育の新入児29人の混合で、特に二年保育の男児が多かった。
	なし	男 女	14 15	
その他	卒業後、最初に受けもった組で、二年保育児25人は前年度他の先生が受けもっていた。			

組のうち非常にやりにくかったのは、級[D]と[A]、やりやすかったのは、級[C]と[E]と[B]、であった。

その原因を考えると、一番やりにくかった級[D]は、五才児と